

# 一般質問通告書

多可町議会議長 山口雄三 様  
多可町議会議員 大西一好



平成25年 9月 3日	
受領	午前 8時30分
	午後 時 分

質問の項目および趣旨	答弁を求める者
I 防災の条件整備は万全か	町長

災害には、地震・台風・集中豪雨・異常気象・洪水・山腹崩壊・土石流・火山・津波・高潮等何らかの自然現象によって引き起こされる。さらに二次災害として放射能汚染も戦後70年近くになって生死の問題となっている。住民の安心安全な暮らしは脅かされている。本町においても毎年見舞われる風水害による被害からの脱出のため、日頃からの防災意識の高揚とその準備を整える必要がある。従って、諸計画情報の整備と共有が喫緊の課題である。整備状況を問う。

II 生きる力の醸成をさらに	教育長
----------------	-----

本年度実施で7回目となった「全国学力・学習状況調査」の結果が公表された。結果の傾向分析を各校で研究し、学力向上にいかに関わりつけるかである。テストのねらいは「教育の改善」とされているが、やはり学力の向上の基本は個々の子どもの学力形成である。教育長の所見を求めます。

III 真の人権文化の社会づくりへ	町長 教育長
-------------------	-----------

基本的人権の尊重は、安心安全の社会生活の根幹である。多可町においける住民の人権意識のさらなる高揚が必要と考える。—町長  
子ども達へは人に優しく、人のいやがることは絶対にしない、命を尊重する「絶対人権感覚」を身につける教育を期待します。—教育長

**I 防災の条件整備は万全か**

安全安心はすべての国民が望む社会の基本である。自然災害の多い本町では、過去昭和38年集中豪雨で家屋全壊2、流出7、半壊12、床上浸水795戸という被害に見舞われた。自治体として最も大事なことは、住民の生命財産と生活を守ることであり、地域の被害を軽減する手立てを最大限に講じなければならない。

面積も多く林齢も高く、山全体に保水力が失われ一度雨が降ると直ちに山から流れ出て谷を削り、川の堤防を破壊して水田・家屋を襲って甚大な被害をもたらす豪雨。度重なる被害からの経験を通して、減災の手立てをどのように講じてきたか。

最近、山崎断層による地震について報じられているが、震度分布図から全く影響のないということは考えにくい。この対策についての防災完成度は。

消防団員減の傾向、地域の人口減から、自主防災、自主避難とか「自主」の強調が感じられるが政策防災との調和と時には政策主導であるべきと考える。自主防災の整備進捗度等についての所見を求めます。

**II 生きる力の醸成をさらに**

平成19年度から国公立小・中学校の児童生徒を対象として、実施されてきた全国学力・学習状況調査が一時変則であったが、25年度は全国全学校参加で実施され、8月に結果を府県別に公表された。OECDによる学習到達度調査の結果やゆとり教育の批判から「学校や自治体が学力の状況を把握して、指導改善に役立てるため」とされている。学力の向上は学校の責務であり、「生きる力」全体で大きなウエイトを占めるものである。

(1) 学力テスト実施から見えてきた家庭生活との関連について

(2) 学力到達度検査との整合

(3) 学力テストは一人ひとりの課題を見つけ指導する材料にすることであると思うが、結果の分析・課題と取り組みと実績

等について教育長の所見を求めます。

**III 真の人権文化の社会づくりへ**

平成19年福知山市で、平成22年・25年多可町役場住民課窓口で、部落差別事件がありました。その間はなかったのではなく表面化していないのであって、社会意識として潜行しており、「自分の都合に合わそうとすると」差別事件として惹起する。これが差別の本質である。

同和問題は「人間の自由と平等に関する問題であり、日本国憲法により保障された基本的人権にかかわる課題である。・・・その早急な解決こそ国の責務であり、同時に国民的課題である」(40.8.1 同対審答申)

一人ひとりの尊い人権はすべての国民のたゆみない努力によって守っていかなければならないのであり、同和問題の解決は憲法理念の実現であり、日本国民の課題であり、世直しでもある。

(質1) この度の事件が繰り返し起こることについて、どのように分析しているのか。

国の法律の有無ではなく、部落差別が存在しているかどうかと同和行政の出発点で、差別が存在する限り積極的に推進しなければならないことを基本視点として、

(質2) 現実を直視して、同和行政のあり方について

町長の所見を求めます。

《教育長》

(質3) もののよしあしをはかる価値観が白紙の状態で生まれてきた子供達が、その環境によってどこでどのようなモノサシを作っていくべきか。

(質4) 差別意識で汚れてしまった大人のモノサシを子どもに植え付けることは、人権教育の問題である。正しい絶対人権感覚を持つ子どもたちがさらに論理と理性に裏打ちされた勉強をし、差別を絶対許さないという強い意志と行動力を学習することによって、真の人権文化の社会となると考えますが。

教育長の所見を求めます。